

教えて先生!

もっと知りたい! 子宮頸がん検診

前ページで、子宮頸がんと子宮頸がん検診について、基礎的な知識をお知らせしました。もっと詳しく知りたい、具体的に知りたいという人のために、ここでは様々な質問にお答えします!



Q 子宮頸がんになる人は増えているのですか?

A 子宮頸がんは、以前は40歳以上の発症が大半でしたが、今では40歳以上は減少し、**20~30代の若い年代で急増**しています。最近では、20~24歳では約2倍、25~29歳では約3~4倍に増加しています。原因は、初回のセックス(セックスデビュー)が低年齢化していることが上げられます。子宮頸がんに関しては、「**まだ若いから**」という理由では安心できないのです。

Q 子宮頸がん検診は何歳から受けたらいいですか?

A 20歳以上でセックスの経験があれば、受けるべきです。市町が案内している子宮頸がん検診は20歳以上で、現在は検診年齢の上限は設けられていません。実は、日本の女性は先進国の女性と比べて検診を受けている人が少なく、特に**20代の受診が低くなっています**。

Q 子宮頸がん検診の費用はどれぐらいかかりますか?

A 子宮頸がん検診の実際の費用は7000円くらいですが、**市町の検診は、その費用の一部もしくは全部を市町が負担**します。医療機関で受けた場合も、実際に窓口で支払う**自己負担額は1000円~2000円**くらいで、残りは市町が負担します。早期発見治療には、**検診がとても有効**なので、積極的に市町が負担しているのです。また**一定の年齢の人は検診が無料**になります。対象者には市町から**無料クーポン券**が郵送されます。めったにないチャンスなので、ぜひ利用してください。



検査費用	約7,000円
- 助成金	約5,000円
自己負担金	約2,000円

Q & A

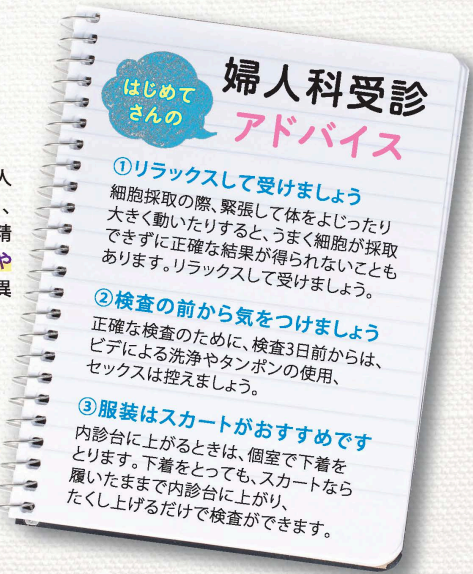
Q いつ検診を受けたらいいですか?

A 生理中は、細胞診の**正しい判断ができない**ので避ける方がいいでしょう。検診を予定する際には**生理期間をはずして**考えましょう。



Q 検診の結果、精密検査を受けることになり、とても不安です。どんな検査をするのですか?

A 検診の結果により精密検査が必要になる人は、100人中1~2人程度です。また精密検査を受けた人のうち、実際に子宮頸がんが発見されるのも一部の人で、「**要精密検査=子宮頸がん**」ではありません。ですから、**むやみに不安を感じる必要はありません**。検診の細胞診で異常な細胞が見つかった場合、細胞の様子をさらに詳しく調べるために精密検査が必要となります。精密検査では、**コルポスコープ**という拡大鏡で子宮頸部を拡大して観察し、**疑わしい部分を一部とって、がんがなければ詳しく調べます。ほとんど傷みはなく、ほとんどの場合、外来で受けられます**。



Q 前がん状態で見つかったら何をしますか?

A 異形成のことを**前がん状態**といい、細胞が**変化を起こした状態**で、そのごく一部が**がん**に進行します。異形成はその程度により、「**軽度異形成**」「**中度異形成**」「**高度異形成**」の3つに分けられます。「軽度異形成」の場合は、**がん**に進行するリスクがほとんどないため、治療は行わず、経過観察を行います。「高度異形成」の場合は**焼く**20%が初期がん**に進行**するとされ、**子宮の入口をほんのわずかに切除する「円錐切除術」や「レーザー蒸散術」によって100%完治**します。「中度異形成」は自然治癒する場合も多いので、状況によって経過観察の場合もあれば、円錐切除をする場合もあります。